

—「元気印」企業—

株式会社 ジーベックテクノロジー

(東京都千代田区)



バリ取り・エッジ仕上げの自動化に応える

★ セラミック砥石の製造・販売で創業

ジーベックテクノロジーは、1996年6月に金型研磨用のセラミック砥石の製造・販売事業からスタートした。1998年には、研磨用セラミック砥石「マイスターフィニッシュ」の販売を本格的に開始した。現在、研磨用セラミック砥石の海外売上比率は全体の2/3を超え、35ヵ国で使用されている。

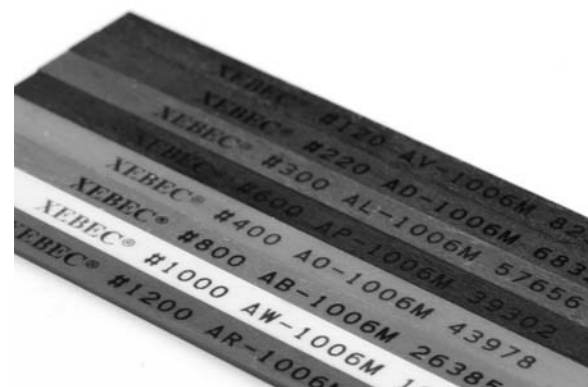
金型研磨用セラミック砥石事業を着実に展開していく一方で、2002年にはセラミック砥石をブラシ状に束ねた「カッティングファイバー」の販売を開始し、同社の新たなコア事業となる“バリ取りの自動化”で市場を開拓していった。同

品は世界で初めてセラミック砥石を線材にしたブラシ状の砥石で、マシニングセンタなどを用いて精密機械加工時の微細バリ取りや表面研磨、カッターマーク除去の自動化が行えるほか、研削力にも優れている。

素材メーカーである大明化学工業とパートナーシップを組み、原材料から最終製品まで自社でコントロールすることで、高品質な製品を提供できる体制を整えている。

★ スピードとキレのある組織づくり

ジーベックテクノロジーは、“スピード感と柔軟さを兼ね備えた組織づくり”を意識してきた。従業員が自由に発言で



セラミック砥石「マイスターフィニッシュ」



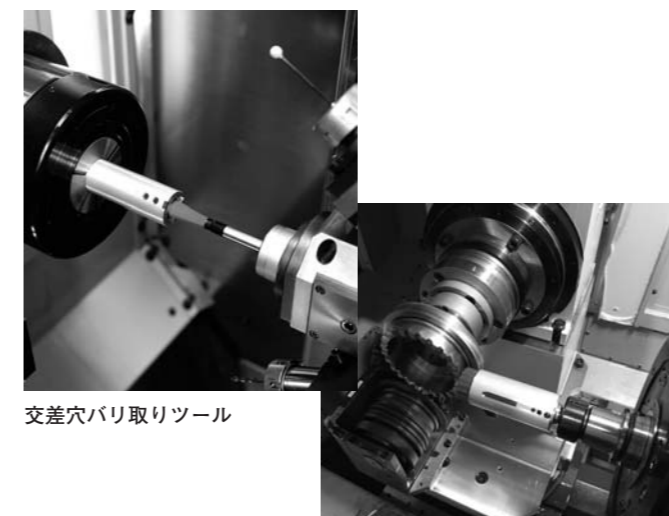
セラミック砥石をブラシ状に束ねた「カッティングファイバー」

きる環境を重視することで、新規事業への展開や現場の声に応える製品づくりに素早く対応できる。また、「去年とは違う何か」を合言葉に、毎年何かしらのチャレンジを行っていく方針で、研削力と品質が売りの企業ならではの“キレのある”人材の採用と育成を行っているという。

技術面では、長野県上伊那郡に生産拠点を構える一方で、東京本社内にテストカッター室と呼ばれる工具の試作やワークの加工などが行える設備を設け、ユーザーへの工具や工法の提案に活かしている。

★ “バリ取り自動化”の市場を創る

セラミック砥石を束ねたバリ取り・研磨用ブラシは、摩擦しても研削力が変化せず、塑性変形しない。この特徴からバリ取りの自動化にマッチした製品と言える。これまでのバリ取り作業には人手が必要だったが、工程を完全に自動化することにより、単純作業を排除し、人件費の削減や生産効率の向上につながる。また、より創造的な仕事に人的リソースを集中できるメリットもある。



交差穴バリ取りツール

マシニングセンタで使用される「カッティングファイバー」



テストカッター室でバリ取り加工方法の検討を行う

同品は、バリ取り以外にも人工骨の表面研磨やアルマイト処理、メッキ、塗装前の下処理、酸化被膜の除去など、応用可能な分野が広い。現在では市場に浸透しているセラミックブラシだが、販売当初は製品を受け入れる市場を探すのに苦労したという。

★ 製造現場の無人化に貢献する

金属加工を行う現場では、必ずバリが発生するものだが、現状の製品ではまだまだ対応できない種類のバリも多く、潜在的なニーズは大きい。また、近年加速する“製造現場の無人化”という課題にも同社の製品は貢献でき、導入することでマシンの稼働率アップや世界市場での競争力の強化に繋がるとアピールする。

同社は、“バリ取りの自動化”を積極的に提案しながら「バリ取りならジーベックに」とユーザーに認知してもらえるような製品づくりやサービスの提供を目指している。

株式会社 ジーベックテクノロジー

【事業内容】 工業用研磨・切断・微細バリ取り用工具の開発、製造、販売

【代表者】 住吉慶彦

【設立】 1996年

【資本金】 2億8437万円

【従業員】 15名